

持続可能な社会作りに向けた 当社物流の取り組み

2024年7月

ダイヤゼブラ電機株式会社

調達本部 物流部 海外物流課

Group Internal Use Only

(C) 2019 DIAMOND ELECTRIC HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved.

目次

1. 会社紹介
2. 当社における物流部門の役割
3. 境港利用による物流改善事例
4. 地元企業としての役割

目 次

1. 会社紹介

- 2. 当社における物流部門の役割
- 3. 境港利用による物流改善事例
- 4. 地元企業としての役割



Company Profile

DIAMOND ELECTRIC HOLDINGS

ダイヤゼブラ電機

設立	2018年10月1日	資本金	1,236百万円（2023年3月末日現在）
本社所在地	大阪府大阪市淀川区塚本1丁目15番27号		
代表取締役社長	小野 有理		
社員数	4,091名（2023年3月末日現在）		
事業内容	自動車機器事業、電子制御機器事業及び附帯関連する一切の事業を行う子会社等の経営管理及びそれに附帯又は関連する業務		

◆【電力変換技術】をコア技術として、事業を展開しております。

自動車機器事業

点火コイル
V2X OBC

TOYOTA DAIHATSU MITSUBISHI MOTORS
SUBARU HONDA SUZUKI
Ford GM STELLANTIS
BYD RENAULT HYUNDAI

電子機器事業

インバータユニット・コントローラ トランス・リアクトル

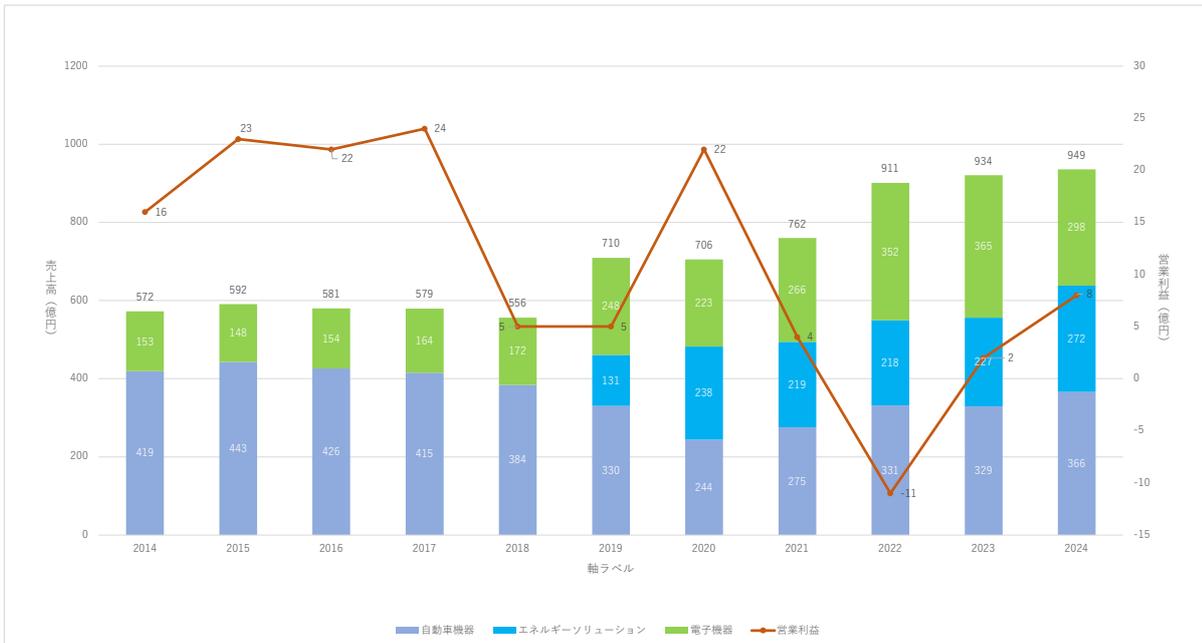
DAIKIN CORONA
Canon TOSHIBA Carrier
Panasonic NORITZ
TOYOTA BorgWarner

エネルギーソリューション事業

パワーコンディショナ・蓄電システム

一条工務店 SHARP
ELIY Power Hanwha Q CELLS Japan
CanadianSolar Loop
VPPJAPAN WEST GROUP

売上高・営業利益推移

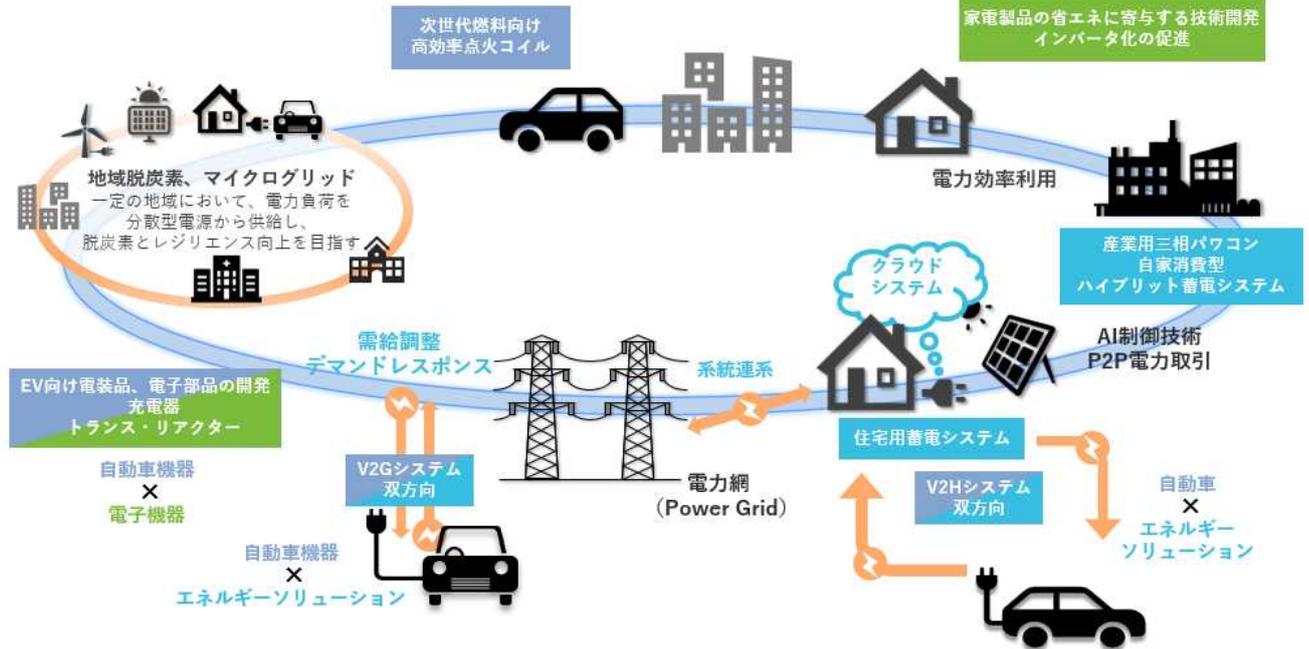


*2018年3月期まではダイヤモンド電機
2018年10月にダイヤモンドエレクトリックホールディングスを設立し、2019年3月期以降は同社業績、2019年1月に田淵電機をグループ化

【境港利用促進セミナー】

【車と家を地球環境に資するものづくりでつなぐ】技術への取り組み

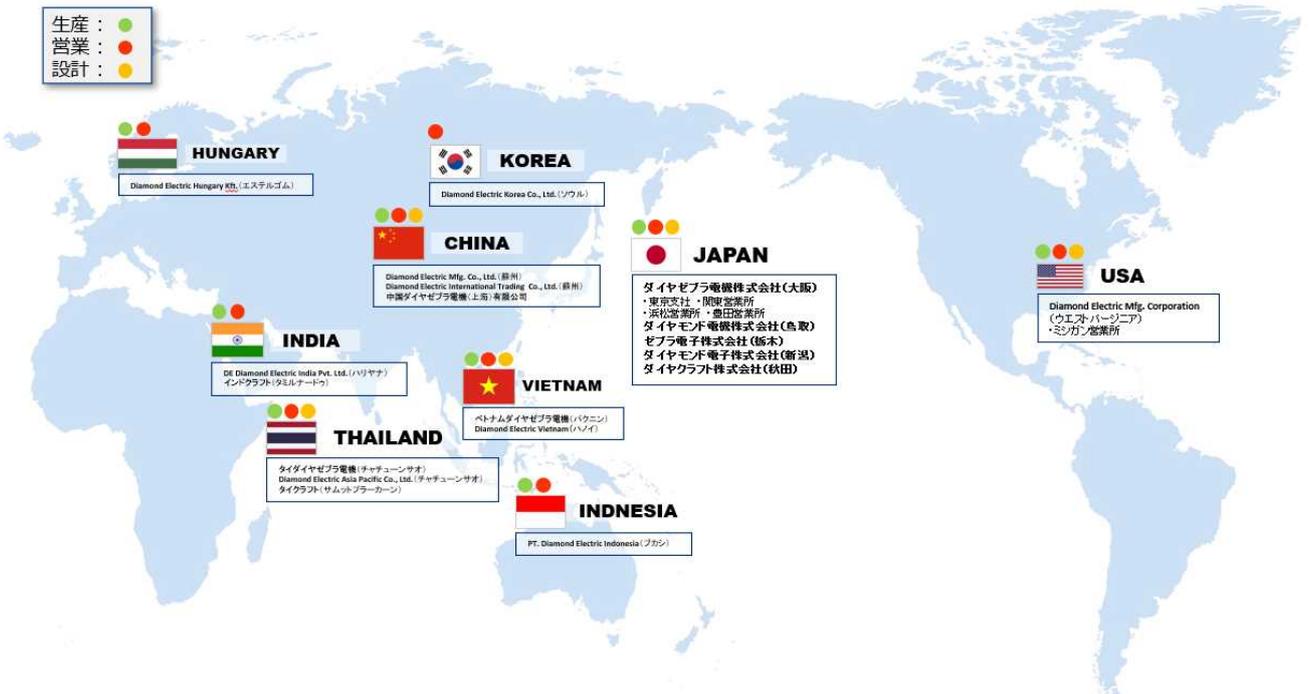
再生可能エネルギーや、分散型電源の増加を機会としつつ変化の過程で生じる社会課題に即した技術に取り組む。



【境港利用促進セミナー】

拠点展開状況

- 生産： ●
- 営業： ●
- 設計： ●



目次

1. 会社紹介
- 2. 当社における物流部門の役割**
3. 境港利用による物流改善事例
4. 地元企業としての役割

Share the Supply Chain

調達情報

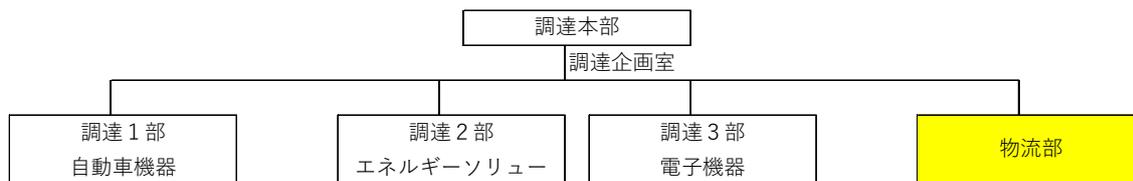
世界最適調達

世界中から最も良い品質・価格のモノをスピーディーに調達し、お客様からの信頼を得られる製品をご提供申し上げられるように、世界中から御仕入先様を募集します。

調達方針

「お客様要求品質第一に徹する」を理念に、全世界からオープンで公平な調達活動を行い、御仕入先様を「パートナー」とお呼びして共存共栄を目指していきます。

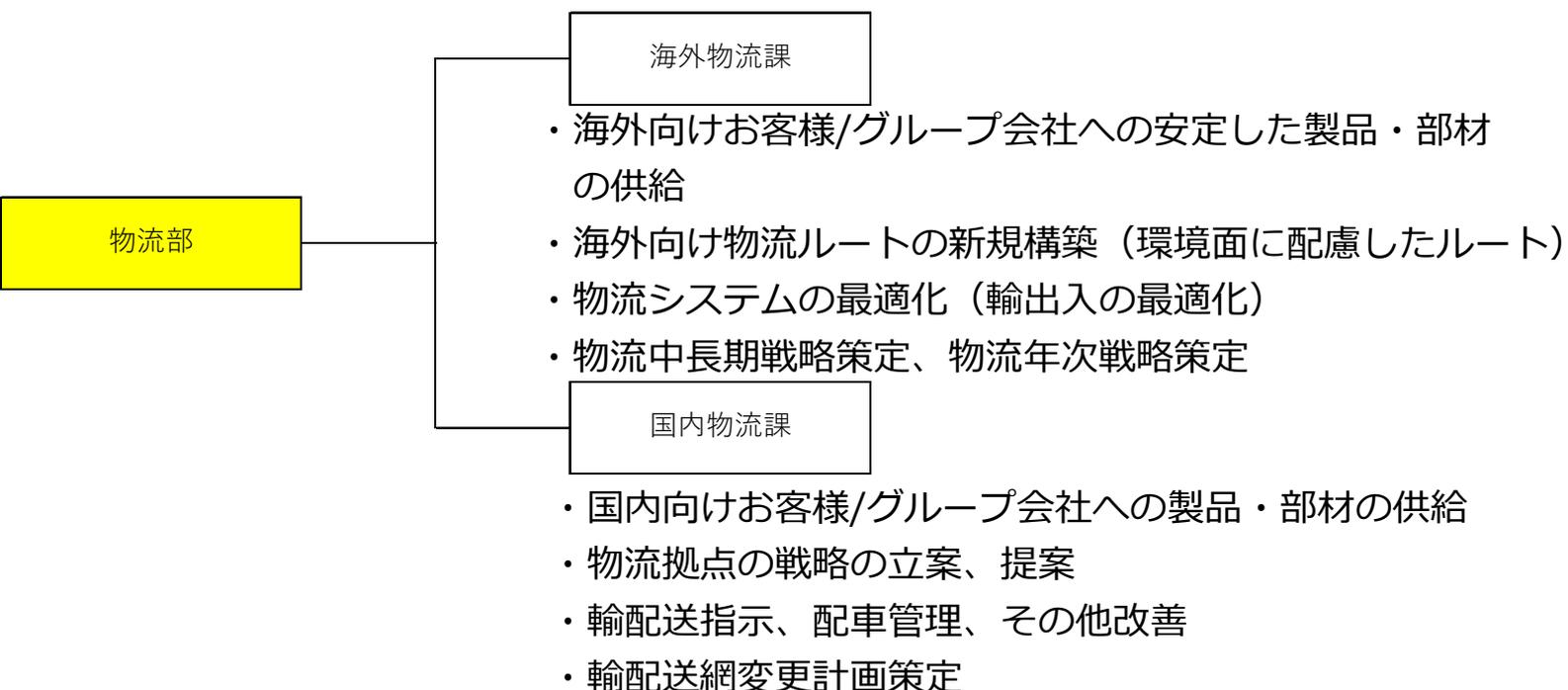
担当組織



グリーン調達

当社は地球環境改善に努め、限りある資源、地球を大切にしたいと考えております。

資材調達においても、より環境負荷の少ない材料・部品・製品等を優先的に調達するグリーン調達に取り組むため、2018年2月に「グリーン調達ガイドライン」を制定しました。また、原材料の段階から製品出荷までの全てのプロセスにおいて、製品に含まれる環境負荷物質の管理を行っております。この活動を進めるにあたり、自社努力はもちろんですが、全ての御仕入先様のご協力が不可欠です。



目次

- 1. 会社紹介
- 2. 当社における物流部門の役割
- 3. 境港利用による物流改善事例**
- 4. 地元企業としての役割

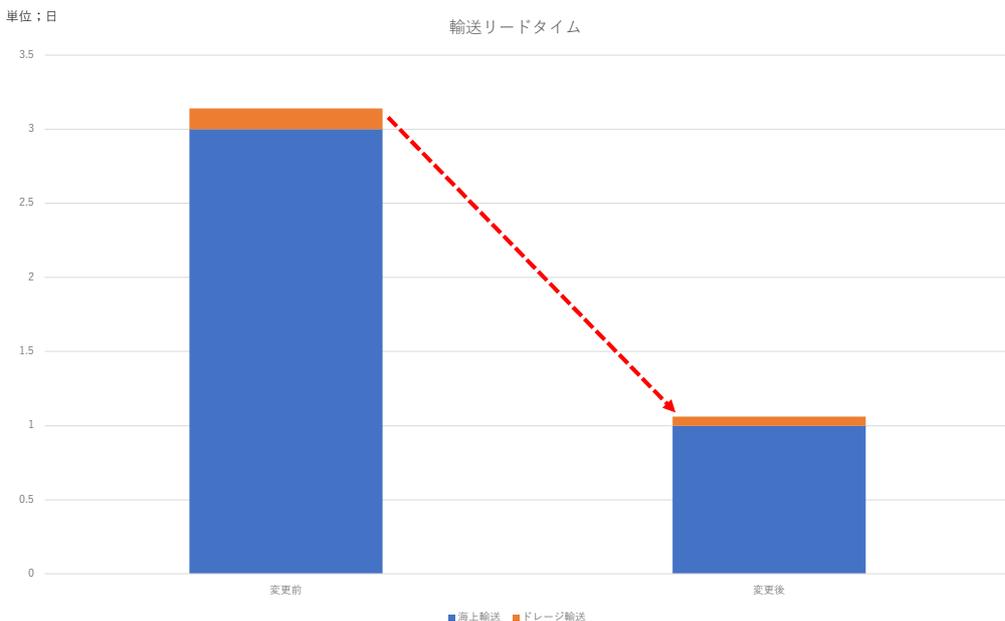
【変更前】

【変更後】



取り扱い品は、工場で使用する銅線（重量物）

輸送リードタイム削減



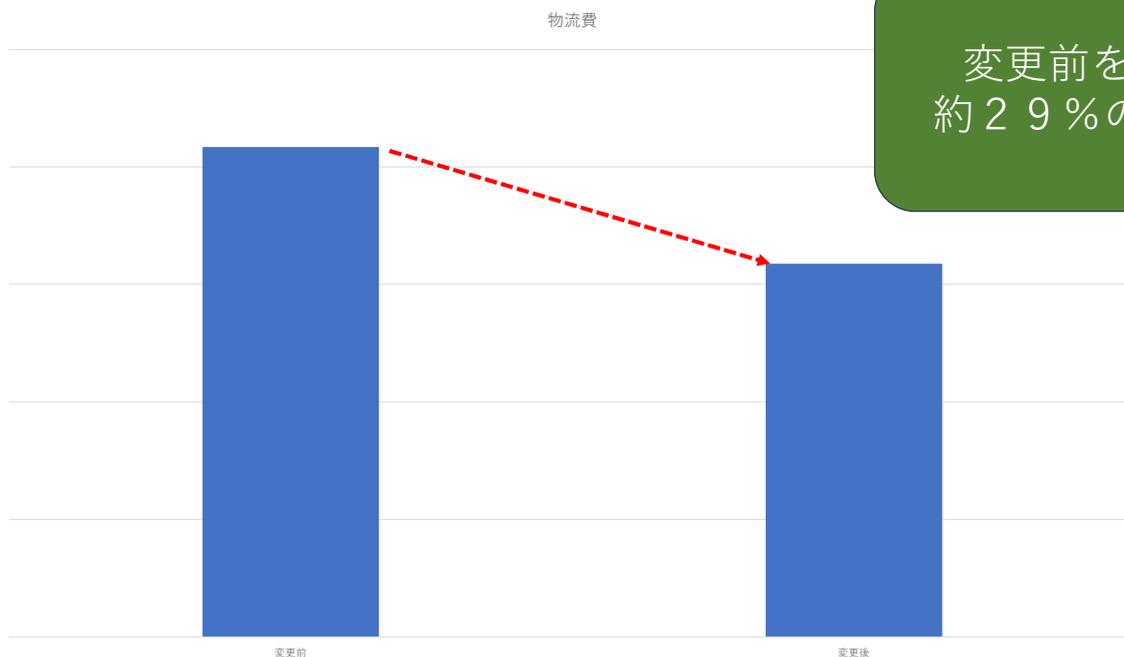
輸送リードタイム
(変更前)

海上輸送
3日
ドレー輸送
2.5時間

輸送リードタイム
(変更後)

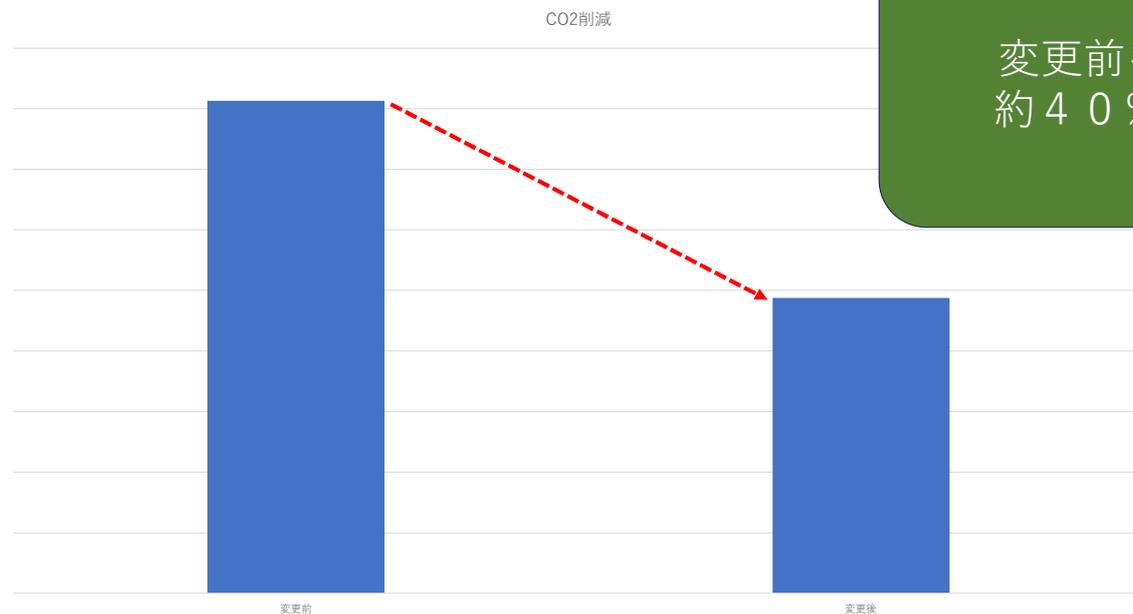
海上輸送
1日
ドレー輸送
1.5時間

コスト削減



変更前をBMとして
約29%の物流費削減

Co2削減



変更前をBMとして
約40%のCo2削減

現場視察（2023年10月） ・ガントリークレーン基追加設置 （2023年度）



現場視察（2023年10月）

- ・ CY⇒CFS 横持時の距離が近い。
- ・ 他行に比べドレー手配が容易（他行に比べ混雑具合は感じられなかった。）
- ・ 待機時間ほぼなし（ドライバー）
- ・ 米子バイパス（無料区間）の活用で高速道路代もかからない点はメリットあり。
- ・ CYでのオペレーション作業は迅速に対応頂けていた。



目次

1. 会社紹介
2. 当社における物流部門の役割
3. 境港利用による物流改善事例
- 4. 地元企業としての役割**

地元企業としての役割

- ①物量増加（内製品増加）による雇用促進
 - ・円安による輸出品拡大
- ②環境問題に目を向けた活動
 - ・近隣業者と一緒に取り組み（共同配送、ラウンドユースなど）更なる境港利用へ
- ③BCP対応として他港からの転換（トライアル輸送の活用）

地元企業としての役割

- ④取引のある船社様、フォワーダー様への招致活動
 - ・境港の利便性を事例として紹介
 - ・Win×Win×Winの関係性構築、コストダウン活動へも寄与

（地方自治体×業者×当社×その他地元企業 etc.）

ご清聴頂き、ありがとうございました。